

# 厚生労働大臣へ要望書提出

## 「医療保険の適用」と「30万人登録の早期実現」を求める

**全国協議会  
ニュース**

発行所  
特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
〒160-0005 東京都  
新宿区愛住町23-1  
Woody21-9階  
TEL.(03)3356-8217  
FAX.(03)3356-8637  
発行責任者:野村 正満  
http://www.marrow.or.jp/  
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座  
00150-4-15754  
銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
注意! 変更になりました。

全国協議会は8月7日、厚生労働省を訪れ、患者負担金の解消と骨髄バンクの財政健全化のために保険適用を求める別記の要望書を提出しました。これと同時に「骨髄バンクドナー登録30万人早期達成のための実施体制構築について」の要望書を提出しました。後者の要望事項は次の通りです。

1. 厚生労働省は、骨髄バンク事業を主導する立場からドナー登録者数30万人を2年程度で達成できるような、ドナー募集実施計画を提示してください。(都道府県ごとの年間登録者の目標数を明示し、地方自治体、日本赤十字社、(財)骨髄移植推進財団とともに、その実施体制を構築して下さい。)
2. ドナー登録30万人早期達成
3. 骨髄ドナー登録における日赤の位置付けを、厚生労働省局長通達を発出することによって「ドナー募集・受付」と明確にしてください。
4. 日本赤十字社が、固定窓口、移動窓口にかかわらず、原則的にすべての献血場所において、骨髄ドナー登録の募集、受付を実施するように指導してください。
5. 日本赤十字社が献血バス等の献血会場において「ドナー募集・受付」を実施するにあたり、全国の都道府県、政令市、中核市等が積極的に協力を行うよう、政府・厚生労働省から指導・通知してください。

### 骨髄バンクの利用にかかわる医療保険の適用について(要望)

厚生労働大臣  
坂口 力 様

特定非営利活動法人  
全国骨髄バンク推進連絡協議会  
会長 海部 幸世

全協第99号  
2001年8月7日

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。貴職にあらまはしては、日頃より国民の健康増進のためご尽力を賜りまして、心より感謝申し上げます。

さて、骨髄バンク事業の進展にともない、骨髄バンクを介した骨髄移植は着実に症例が増え、昨年度は年間700例ほどの非血縁者間骨髄移植が実施されました。しかしながら、こうした実績を重ねる一方で、患者とその家族にとりましては、患者負担金が発生し、過重な経済的負担をおわされています。また、症例数が増えるにつれ、骨髄バンクの経営も大きな負担が生じる構図になっています。

このような状況を突破し、健全な骨髄バンクとするために、私たちは1999年2月28日付で、厚生大臣にあてて要望書「骨髄移植にかかわる医療保険適用について」を提出させていただくとともに、同様趣旨の署名活動を行い、同年12月16日には大臣室にて厚生大臣に、現状を訴えるとともに私たちの思いを陳情させていただき、47万人の請願署名を直接手渡し提出いたしました。

しかしながら、私たちが望んでいる状況の改善は何ら進展しておりません。いま、来春に行われる診療報酬点数改定の見直し時期を迎え、再度、下記の通り要望いたしますので、なにとぞよろしく実現して下さるようお願い申し上げます。

#### 記

1. 骨髄移植に使用する骨髄液に医療保険点数をつけ、現在骨髄バンクを介した骨髄提供に派生している患者負担金を解消してください。
2. 海外の骨髄バンクから提供される骨髄に対しても国内と同様の扱いとし、患者負担のないようにしてください。
3. 骨髄バンクの運営経費については、補助金による国庫補助ではなく、医療保険会計によるものとしてください。

### 女子プロゴルフ ヴァーナルオープン

8月3日から5日の猛暑の中、女子プロゴルフ公式トーナメント「ヴァーナルオープン」が成田市のザ・プリビレッジ・ゴルフクラブで行われ、この大会を主催している株式会社ヴァーナルより社会貢献の一環として全国協議会に寄付をいただきました。

これに先立ち、8月1日以前夜祭パーティーが行われ、北島三郎さん、館ひろしさんらの有



大会の優勝は不動裕理プロでした。(木村)

### 第15回理事会報告 8月19日・全国協議会事務局

- 協議事項
  - 後援等の承認について
  - 要望書・患者負担金の増額について
  - 諸規程について
  - グッズ作成について
  - 小冊子について
  - 「NPOアワードinおおさか」について
  - 加盟団体のプロフィール調査について
  - 医療最新情報の収集と広報について
- 報告事項
  - NPO全国フォーラム2000
  - 1 東海会議
  - 女子プロゴルフ ヴァーナルオープン
  - 住友スリーエムチャリティゴルフについて
  - ブロック別関係者会議の反省会について
  - 財団の財政説明について
  - 議案書について
  - 情報誌発行について
  - 白血病フリーダイヤル相談員ミーティングについて
  - 日本つばさ協会主催医療シンポジウム報告
  - 協議会ニュース編集委員会報告

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

●早期目標コーディネートの開始について  
財団では、ドナー候補者の方への移植希望時期の通知と「早期目標コーディネート」を開始することになりました。これまでは、最終同意確認まで患者側の移植希望時期をドナー候補者に知らせていませんでしたが、9月7日以降は、確認検査の日程調整の時点と最終同意面談の日程調整の時点で、移植希望時期を知らせることにより、より円滑な移植・採取調整が可能になるものと考えられます。なお、移植希望時期は患者さんの状況や医療機関の都合により、いつでも変更となることがありますが、登録責任医師には、できるだけ確実な時期を連絡するよう希望しています。

また「早期目標コーディネート」を開始します。これは、コーディネート開始時、①登録責任医師が移植医である ②患者側の移植希望時期が60日以上120日以内 ③登録責任医師からの早期移植の希望が出される——ことを条件とします。財団の「コーディネート支援システム」で各行程ごとの目標日を計算させ、目標日を意識したコーディネートを行うものです。ただし、現在のコーディネートの手順等を変更するものでは

はなく、必ずしも早期の移植を約束するものではありません。

●国に対し「骨髄バンク事業に医療保険適用」を正式要望  
8月15日(水)、財団は厚生労働大臣に対し「骨髄バンク事業に関する医療保険の適用について」(要望書)を提出しました。一昨年に引き続きの提出で、今回は、日本さい帯血バンクネットワークと連携しての要望となりました。要望事項は「骨髄移植(さい帯血移植)した場合、診療報酬として骨髄液(さい帯血)への350万円の点数新設」です。骨髄バンクは事業進展に伴い順調に移植件数が増加し、本年は年間750例を超えているため、やむをえず、患者負担金額の検討を余儀なくされている状況です。さらに、今回の要望書では医療施設の充実のため、1)非血縁者間造血細胞移植(骨髄移植、さい帯血移植)した場合、移植後90日まで1日あたり2万円の管理加算点数の新設 2)ドナー

安全対策を強化するため非血縁者間骨髄採取に10万円の点数増額——の2点についてもあわせて要望しました。

●国主催の「骨髄バンク事業関係者会議」全国6地区で開催  
厚生労働省主催の「骨髄バンク事業関係者会議」が、8月8日広島での会議をもって終了しました。これは、国が低迷傾向にある骨髄ドナー登録拡大について協議するため全国6地区で開催したもので、30万人ドナー登録者確保に向けた対策会議と位置付けられるものです。今回は特に「移動献血併行型ドナー登録受付を全国的展開する」と明確な方針を示されました。各地での会議では、支援団体と地区普及広報委員の方から「事前折衝が煩雑」「平日取り組みは困難」「ボランティアに依存するシステムは脆弱」などの意見が相次ぎ、また、行政、血液センター、支援団体による地域推進連絡会(仮称)の定例開催、役割分担と体制確立が欠かせないとの意見も出されました。

なお、厚生労働省は8月1日付けで、各省庁、都道府県、政令市、特別区に対し「骨髄提供希望登録者の確保について(依頼)」の文書を出し、「各庁舎および

管下関係機関における移動献血併行型骨髄ドナー登録会の実施、関係者間の連絡調整を促すこと」を依頼しました。今後、各地でドナー登録者拡大に大きな成果が得られことが期待されます。

●ドナーズネットにアクセスを  
(http://www.donorsnet.or.jp/)  
財団のキャンペーンサイト「ドナーズネット」がオープンしてから1か月が経過しました。現在は、名古屋での「友情」の1か月のロングラン公演に出演中の渡瀬恒彦さんのインタビュー、格闘技ファンがアンディ・フグさんに寄せた熱い思いや、2度目の提供者に挑戦中の杉本はるみさんのインタビューなどが掲載されています。メールマガジンの発行も行っています。ぜひご覧ください。

●日本骨髄バンクの現状(2001年7月末現在)

	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	1,765	139,538	169,512
患者登録者数	166	1,603	11,203
骨髄移植例数	55	—	3,503

(注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。

### 骨髄バンクNOW

# 映画「いのちのあさがお」に文部科学大臣賞

東映(教育映像部)製作の映画「いのちのあさがお」が7月30日、2001年度第48回教育映像祭(映画部門・児童劇・アニメ)において、最優秀作品賞(文部科学大臣賞)を受賞いたしました。この受賞を機に、この映画が全国でより多くの教育機関に收藏されることを期待したいと思います。

## 野村前理事長がさい帯血の委員長に就任

全国協議会理事長を6月で任期満了となり、笠原慶一理事長と交代した野村正満前理事長が、このほど日本さい帯血バンクネットワーク事業運営委員会の委員長に就任しました。

### 野村新委員長の談話

「日本さい帯血バンクネットワークはまだよちよち歩きの状態です。これからしっかりと形を整えなければならぬと思います」

任することにより、後任に野村委員長が選出されたものです。

野村委員長は選出された細胞移植では症例数全体の2割以上がさい帯血移植であり、骨髄バンクと比肩する存在です。日本さい帯血バンクネットワークの円滑な運営と体制の整備には、委員長として責任を痛感しています。



## 各地のたより

### 群馬 3日連続の献血並行型登録会

群馬の会は8月8日から10日にかけて、3日間連続の献血並行型ドナー登録会に参加し、36名の登録者を得ることができました。8日と9日は群馬県庁が、10日は沖電気高崎工場が会場となりました。

この催しに先立ち、7月22日に財団普及広報委員の牛島氏に講師をお願いして、説明員の講習会を開催しました。

ここで学んだ成果を生かすべく、3日間の登録会には延べ11名が参加し、ビデオ上映や登録の説明などを行いました。すべて平日の昼間というボランティアにとっては活動しにくい条件でしたが、予約を上回る多

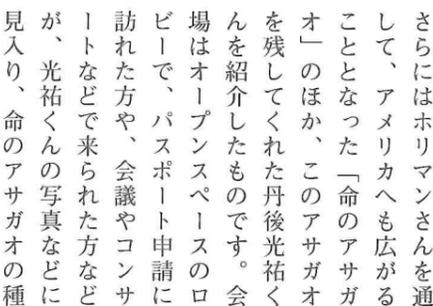
## 心からのご寄付をありがとうございました

7月24日～8月20日

切明 義・喜久美	現金	10,000円	
中井久義	切手	2,090円	
田島香雪	現金	1,000円	
ジーストア株式会社	現金	201,501円	
浅井み奈子	現金	1,000円	
鈴木純子	現金	340円	
匿名	現金	5,230円	
相馬豊子	現金	4,015円	
東宝チェッカーズ	現金	21,495円	
(株)サンゴールド合衆国モノロー店	現金	10,000円	
株式会社ヴァーナル	現金	1,000,000円	
ヴァーナルオープンプロアマゴルフ大会	現金	158,000円	
岡本綾子	現金	50,000円	
村上順子	現金	50,580円	
渡辺悦子	現金	10,000円	
国際ソロプチミスト豊中一千里	会長 木本都子	現金	50,000円
ホリチキョウコ	現金	10,000円	
●佐藤さち子患者支援基金	現金	10,000円	
切明 義	現金	(敬称略)	

### 活動資金の援助をお願いします

銀行口座  
三井住友銀行 新宿通支店  
普通 5666655  
郵便振替口座  
00150-4-15754  
全国骨髄バンク推進連絡協議会



三共株式会社

# GET POWER! Regain!

肉体疲労時の栄養補給、滋養強壮に 成人(15才以上)1日1回1本。  
J-リゲイン 100ml・194円 / リゲインA 50ml・500円 / リゲイン 50ml・291円 医薬部外品  
価格はすべてメーカー希望小売価格(本体価格) http://www.sankyo.co.jp/healthcare/

回を重ねることにより、着実なドナー拡大の方法として各地に浸透しつつある献血並行型のドナー登録会を埼玉県内で推進していくにあたり、7月の定例会にて登録説明員の研修会を実施しました。財団の資料を基本とした説明を受け、後半では受講者が二人一組となって実践しながらのロールプレイングを行いました。そして、この研修会を踏まえて7月25日には沖電気本

8月3日から27日にかけて「友情・秋桜のバラード」の公演が行なわれました。この公演は、日本骨髄バンク設立10周年キャンペーン&中日劇場35周年記念として中日劇場で上演され、入場料収入の1割が(財)日本骨髄移植推進財団に寄付されるというチャリティ公演です。この会場が席が1440もある大きな会場で、期間中42回の公演がありました。毎日とても多くの方の涙と感動を呼びま

7月30日から8月5日までの1週間、岐阜県民ふれあい会館2階の県民ギャラリーで、命のアサガオ展を開催いたしました。昨年の決戦関ヶ原大垣博での「命のアサガオ」地域を巻き込んだの長良中学校の取り組み、中部9県や高速道路へ広がった「命のアサガオ」、さらにはホリマンさんを通して、アメリカへも広がることとなった「命のアサガオ」のほか、このアサガオを残してくれた丹後光祐くんを紹介したものです。会場はオープンスペースのロビーで、パスポート申請に訪れた方や、会議やコンサートなどで来られた方などが、光祐くんの写真などに

説明員研修会と沖電気登録会

舞台「友情」&登録会

命のアサガオ展

「もう一人の私」出版

庄工場の登録会で説明員としての認定を受けるため、埼玉の会員数名が参加しました。

沖電気では本社の社会貢献推進室の働きかけによって各地の事業所において献血並行型の登録会を実施いただいております。社員に向けた十分なPRと、希望者には事前にビデオを見ていただくなどの配慮がありました。

また、献血の受付の際、一人一人にドナー登録の意思確認をしてくださった血液センターのご協力に感謝いたします。(西澤洋子)

会場では、「あやちゃん展」や本の販売も行ない、こちらの方も大盛況でした。そして、愛知県ではこの舞台にあわせ「友情応援骨髄バンクドナー登録会」が県内6カ所で7回開催され、多くの方が登録をされました。この夏愛知は、ハードで充実した感動の毎日をおくりました。(中島)

このほど発行いたしました。この本は、会報「東京の会通信」に連載している患者さんとドナーのメッセージを一冊の本としてまとめ、さらにそのメッセージが掲載された時期の骨髄バンクの状況などを解説して、10周年記念事業として骨髄バンクの歩みをまとめる構成になっています。

東京の会通信の患者メッセージは1993年6月から、ドナーは1994年5月から掲載が始まりましたが、1999年12月までに掲載した150名の寄稿者に再掲載の許可を求めました。

この「もう一人の私」は同じ血液が流れている患者さんとドナーのことを意味していますが、読者からは素晴らしい本だとの反響が次々と寄せられています。350ページの中身の濃い本になりましたが、編集などは全て東京の会の会員による手作りの自費出版です。ぜひ、多くの方にお読みいただきたいと思ひます。(荒木)

この「もう一人の私」に収録したメッセージは患者さん47名とドナー27名の合計74名分です。これらのメッセージにはすでに亡くなられた患者さんのものもあります。遺族や執筆者による近況も添えられています。

